

2023年度事業報告

(2023年4月1日～2024年3月31日)

1、フードバンク事業

フードバンク事業では、まだ食べられるのにさまざまな理由で廃棄される食品を個人や企業から寄贈してもらい、食の支援を必要とする生活困窮世帯や低所得で子育てするひとり親・ふたり親家庭への

(1) 2023年度入庫（食品寄贈2024年3月まで）集計（単位kg）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	前年度
市民	269	339	371	441	597	338	607	360	467	243	304	369	4,704	4,501
企業団体	352	1,839	473	665	709	1,187	1,005	2,877	1,045	543	775	1,332	12,802	9,562
常設	142	528	268	505	324	462	436	200	342	137	175	128	3,645	3,049
生協	150	150	150	390	130	389	130	149	145	229	442	130	2,584	4,960
イベン			48										48	110
廃棄	-14	-7	-13	-3	-34	-18	-40	-24	-22	-25	-72	-9	-279	-156
購入		55		7	11				14		181	643	911	
総計	900	2,904	1,297	2,006	1,738	2,358	2,139	3,665	1,991	1,127	1,804	2,592	24,521	22,026

今年度はコロナ禍が一定落ち着いてきたこともあり、食品企業未利用食品や諸団体によるフードドライブ食品寄贈量は減る傾向にある。市民からの寄贈量や購入食品寄贈もやや低迷気味という状況。しかし全国フードバンク推進協議会のほか、マッチングシステムの活用や東京都の非課税世帯米、小口寄贈でも受け取る努力もして、寄贈食品入荷量は全体で年間24トンと約2トン増となった。繋がる団体も増えて、提供する団体への提供量の方が少し上回り多くなった。

施設面では、このところの暑さから米やチョコ菓子などは、夏前の早くから倉庫から事務所に移してエアコンを終日つける必要に迫られた。倉庫の暑さによる作業効率の低下・厳しさだけでなく夏場の電気代の高騰は財政を圧迫している。また病気で役員の休業・離任もあり、車で配送や集荷作業に役員以外のボランティアにお願いし、一部カーシェアを利用して配送・運転に携わってもらった。担い手の高齢化で、今後も配送・集荷は喫緊の課題。

① 市民寄贈

家庭で使わない食品や購入してフードバンク市庁舎作業所や事務所/倉庫への持ち込み、宅配便で届く市民の寄贈食品。東京都非課税世帯支援米の寄付が多かった。また購入寄贈の支援、「Amazon 欲しいものリスト」からの寄付も定着した。

・ 2024年3月 Amazon ほしいものリスト寄贈状況（円換算）

	4月	5月	6月	7月	8月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
食品	52,153	12,728	37,736	79,101	26,348	7,884	47,156	40,174	12,368	24,847	35,068	375,563
物品	15,096	7,146		2,800	840		7,746					33,628

総計	67,249	19,874	37,736	81,901	27,188	7,884	54,902	40,174	12,368	24,847	35,068	409,191
----	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	---------

② 市内11か所の常設寄贈受付

昨年5月からのファミリーマート2店舗に、地域センター2か所と「ふらっとなんぶ」が加わり、市内食品寄贈受付場

所は市庁舎作業所と西野川倉庫を含めて11ヶ所に増えた。2024年3月でこまえくぼ移転により、2024年度5月から市庁舎ロビーに新たに食品寄贈ケースの常設設置が決定している。寄贈量は昨年度より3.2t増加。市民が食品を持ちこめる常設場所が増えて地域に知られるようになり定着してきた。

常設	総重量 (Kg)	うち米 (Kg)	2022年度 総重量
こまえくぼ1234	1,058.0	281.0	1,502.8
社会福祉協議会(あいとぴあセンター)	1,532.1	677.0	883.7
こまえ苑	302.1	188.0	449.2
こまえ正吉苑	262.6	127.0	263.6
ふらっとなんぶ	318.4	146.0	
岩戸地域センター	143.4	19.0	
上和泉地域センター	28.3	4.0	
合計	3,644.9	1,442.0	3,099.3

*「ファミリーマートフードドライブ」は企業・団体に区分されます。

	重量 (kg)	うち米 (kg)
ファミリーマート狛江東和泉店	228.5	125.0
ファミリーマート東野川二丁目店	248.9	125.0
合計	477.4	250.0

③ 企業・団体

全国フードバンク推進協議会マッチング企業のコカ・コーラボトラーズジャパン、明治ホールディングス、関東生乳販売農業協同組合、ヤクルトなどをはじめ、尾西食品、キッコーマン、堀口珈琲などや、ダイエー都内3店舗、カーブス3店舗のフードドライブ品の寄贈も受けた。また、東京都マッチングシステム、東京都生協連、こどもサポート証券ネットなどを積極的に活用し、寄贈量の確保を図った。

日本NPOセンターの仲介で、NTTデータINCが初めて社内フードドライブに取組み、市内の団体によるフードドライブでは、商工会青年部や狛江市社会福祉法人連絡会が実施して寄贈を受けた。またSDGs学習で、和泉小学校が今年度も冬・春にスクールフードドライブに取組んだ。ほかに賛助団体三色パステルアートの購入寄贈や、おてらおやつクラブ華嚴院(町田)のお供え物(果物等)のおすそ分け、福島支援で購入米寄贈の東京すずらんの会、天理教江東分会、三田会の会員個人での継続した寄贈も続いている。

2023年度食品等を寄贈いただいた企業・団体一覧 敬称略・順不同		
ナトーコーポレーション(株)	狛江市健康推進課	ファミリーマート狛江東和泉店
NPO法人POPOLO	狛江市商工会青年部	ファミリーマート東野川二丁目店
NPO法人えるぶ	狛江市地域活性課	フーディウム下北沢店
NTT研究所	三色パステルアート	フードバンク調布

(株)NTT Data Inc.	社会福祉法人連絡会 7 団体	プラスアルファ
味の素 AGF(株)	神代団地自治会	堀口珈琲
岩井コスモ証券(株)	創価学会	民家園事業実行委員会
岩戸学童保育所	ダイエー三軒茶屋	明治ホールディングス(株)
エフエムジー&ミッション株式会社	ダイエー幡ヶ谷	ユウキ食品(株)
オール狛江おやじの会連合	大鵬薬品工業(株)	塩水港精糖(株)
岡三証券(株)	武甲証券(株)	華嚴院 おてらおやつクラブ
尾西食品(株)	正受院	(株)近鉄コスモス 銀座営業所
カーブスアメリカ稲城	天理教江東分教会	(株)プランニング オフィス エム エム
カーブス上野毛	東京すずらんの会	(株)ヤクルト
カーブス祖師谷大蔵	東京都福祉保健局	(株)ライフ・デザイン
カルゲン製薬(株)	東京都未利用マッチングシステム	(株)ローソン
キッコーマン食品(株)	東都生協	関東生乳販売農業協同組合
銀座ステファニー化粧品(株)	トータス往診クリニック	国分フーズ
コープみらい	中山法律事務所	三田会
コープミライソメチ	日本橋西ロータリークラブ	生活クラブ フードバンク
コープみらい三鷹センター	野村証券(株)	東京都教育庁
コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)	パークレイズ証券(株)	日本証券業協会 SDGs 推進室
国際三田学園高等学校	パルシステム狛江センター	和泉小学校フードドライブ
こまYELL	狛江市安心安全課	ピタッティ

④ イベントでのフードドライブ

6月4日「こまエコまつり」のフードドライブでは、48kg食品寄贈があった。ニュースレターでこの取組を会員などに知らせても、コロナ禍以降会員が集まってくることが減り、また市内の寄贈受付場所が拡大する中、イベントでの食品寄贈集荷は難しくなっている。

⑤ 生活協同組合による支援

東都生協のフードドライブ今年度も2回、9月25日、6kg、2024年2月28日、9kg寄贈を受け、今年度も「未来につなぐ募金」では約10万円相当の商品寄贈を受けた。お米の寄贈はコープみらい毎月5kg×26、パルシステム東京狛江センターでも2回339kg、生活クラブフードバンクからはレトルトカレーの寄贈を受けるなど、生協との連携で食料支援事業が支えられている。

⑥ 廃棄となる食品

市民寄贈やフードドライブでは、賞味期限切れや封を切っているもの、期限不明食品は廃棄処分としている。

(2) 地域の福祉団体への食品提供

食堂系団体はお弁当の配布やパントリーだけでなく、感染対策を講じ食事の提供とイベントもやれるようになってきた。ごはんと居場所の連絡会では、他都市の食中毒のことも話題に上り、メニューに気を遣っている。新たな居場所事業者や開催回数を増やす団体もあり、昨年度より約2トン提供量は増えた。

(単位kg)

団体	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
うち米	30.0	128.0	80.0	55.0	37.0	80.5	85.0	80.0	66.0	187.0	132.0	123.0	1,083.5	745.8

件数	7	10	16	19	25	15	22	17	17	17	10	22	197	148
----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----

食のセーフティーネット事業とは、狛江市との食料支援連携協定により、さまざまな理由で一時的に困窮し、食の支援を必要とする世帯へ、生活困窮自立相談窓口「こま YELL」からの依頼書を受け、世帯に合わせ食品を提供する事業と子育て世帯で低所得のひとり親・ふたり親家庭を対象に、学校給食のない時期に食料を提供する食料支援事業。また年4回この家庭で学習支援をうける子どもたちにお菓子や飲料

(1) こま YELL を通じた食料支援

- ① 自立支援窓口「こま YELL」への食料提供は、毎週月曜・木曜の午後1時から3時、市庁舎作業所で食品寄贈受付と、こま YELL の依頼書をもとに世帯に合わせた食品セットをして提供している。

「こま YELL」への提供件数は、物価高騰もあり、2023年度年間1,315件と件数は増えた。コロナ禍2類が5類になって、国や行政の支援策終了や自立支援を受けて就労したためか、年明け1月から88件と減る傾向へ転じた。

(単位kg)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
こま	565	622	659	590	494	481	576	686	663	438	584	564	6,921	6,066
件数	99	116	135	113	105	105	123	125	112	80	106	96	1,315	1,093
(内米)	137	137	173	197	108	132	218	235	184	133	176	158	1,985	1,601
備蓄用	38	60	59	28	15	36	28	22	34	27	8	38	392	250
件数	11	19	18	12	7	12	9	6	10	9	3	13	129	74

- ② 学習支援を受ける子どもたちへ、年4回お菓子・飲料を提供。こま YELL は小・中高生の相談支援対象家庭、子ども政策課は小4～高校生までのひとり親家庭の子どもたちへの支援。

		夏休み	ハロウィン	クリスマス	春休み
こま YELL 学習支援	件数	26	31	32	34
	お菓子・飲料提供量	23.4kg	21.8g	32.0kg	30.6kg
子ども政策課学習支援	件数	34	31	32	34
	お菓子・飲料提供量	30.6kg	21.7g	33.1kg	27.8kg

(2) 「学校給食のない時期」食料支援で子育て応援、不定期開催のおすそ分けお渡し会

狛江市子ども若者政策課(旧 子ども政策課)、学校教育課の周知協力で、8月夏休み支援は就学援助受給決定通知書発送時と児童扶養手当況届提出案内の発送時に、12月冬休み支援は夏休み支援に申込まれた世帯にメールで、またひとり親医療証書送付時に「子育て応援食料支援案内」を同封し実施。3月の春休み支援は、夏・冬休み支援の申込み世帯にメールで案内して申込を受けて取組んだ。

夏休み支援189世帯、冬休みには198世帯、春休みは154世帯から応募があり、配送と直接受渡しで食品を提供。

冬休み支援では、N T T データ INC 社員のボランティア参加を受け入れて、支援食料の発送作業を行った。ま

た、お米の寄贈が多く、5月・6月・9月・11月・12月・1月・3月の7回、子育て応援に申し込んだ世帯に、一斉メールで「おすそ分けお渡し会」の申込を受け付けて実施。提供食品では、寄贈食品に防災備蓄品などが多くなり、春の応援時には、お米、お菓子や調味料、飲料に加えて食材の不足分を助成金で買い足し、日用品なども提供して喜ばれた。子育て応援事業も5年目を迎え、土曜開催日には子ども連れで取りに来て、スタッフの声かけも含め、この事業が子育てへの励みや支えになっていると感謝の声が多くアンケートにも書かれている。お渡し会は事前準備よく、一回一時間程度でスムーズに進み、ボランティアにもモチベーションを高め参加してもらいたい事業となった。

2023年度(2022年度) 学校給食のない時期の食料支援 支援世帯数・人数				
	世帯数	親+子供数	18歳以下人数	食料支援量 kg
2023年夏休み	199 (204)	588	342	3,483 (2,090)
2023年冬休み	199 (1,000)	614	360	2,305 (2,409)
2024年春休み	154 (1,711)	477	276	1,725 (3,413)

2023年度子育て応援 お渡し会(不定期)									
提供先		5月	6月	9月	11月	12月	1月	3月	計
子育て 応援	世帯数	90	92	94	98	77	82	88	621
	食料支援量 kg	634	540	553	593	301	482	410	3,513
	(内米)	450	460	470	490	228	410	264	2,772

3、フードバンクの普及・啓発事業

広く食品ロス削減を呼びかけ、ロス食品を生活困窮者支援に活かす地域の「食の分かち合い」をフードバンク活動として提起し、地域に発信することを通して共に支え合う心豊かな地域社会を創ることを目的に、啓発活動を行う。

本年度は以下の広報・啓発活動を実施しました。

① 「こまエコまつり」でフードドライブ実施

6月4日、場所：市民広場市役所玄関前テント、フードバンク狛江ブースにて寄贈食品48kg集荷。

② 「食の分かち合い推進会議(仮)」の開催

9月1日、狛江市の福祉相談課や環境政策課をはじめフードバンクとつながる市内12団体に集ってもらい、フードバンク活動を持続可能にして行くために、地域の仕組みづくりなどについて意見を出し合う。

*参加団体：狛江市福祉相談課・こまYELL・環境政策課・狛江市社会福祉協議会・こまえくぼ1234・パルシステム東京狛江センター

狛江市商工会青年部・狛江青年会議所・狛江市社会福祉法人連絡会・ごはんと居場所連絡会・東京土建狛江支部・狛江共生の家

③ 10月の食品ロス削減月間 狛江市環境政策課と共催

・10月7日、行長万里(料理研究家)「台所から考える食品ロス削減」講演会

エコパートナー養成講座でフードバンク狛江活動紹介と市庁舎作業所見学。講座参加者21名。

・10月28日、(株)日本フードエコロジーセンター循環型リサイクル事業工場見学会

参加者18名(中学生1名)、マイクロバスで相模原の工場と、稼働したばかりのバイオマス発電工場も見学。

④ 1月25日、理事長講演による広報

滋賀県大津の全国市町村国際文化研修所、「生活困窮者の自立支援」政策実務研修で講演。行政と連携がう

まくいっている事例として依頼を受ける。「もったいない」を「いただきます」へ繋ぐ地域のフードバンク活動を報告。(8千人～100万人の24市町村から、自立支援に関わる相談支援員の研修。厚労省就労支援専門官、認定NPO法人抱樸、座間市役所と社協が講師陣。)

⑤ 媒体を利用した広報活動

・紙媒体

ニュースレターで会員・支援者に活動周知。市民に食品寄贈を呼びかけるチラシ・ポスター作成。今年度はチラシの作成に、コープみらい×中央共同募金会を使用

ニュースレター	合計4回	2023年6月 No.35 2023年9月 No.36 2023年12月 No.37 2024年3月 No.38
チラシ 公営掲示板・公共施設・ 町内会・スーパー等で 配布/掲示	合計7,500枚	2023年5月 1,200枚：通年、食品寄贈呼びかけチラシ 2023年6月 1,700枚：夏休み子育て応援食品寄贈 2023年9月 1,600枚：食品ロス削減月間 2023年11月 1,700枚：冬休み子育て応援食品寄贈 2024年2月 1,300枚：春休み子育て応援食品寄贈

・インターネット媒体

facebook	毎週更新	https://www.facebook.com/foodbank.komae/
X (旧 Twitter)	活動日毎に更新	https://twitter.com/foodbankkomae
ホームページ	イベントの告知や報告随時更新	https://fb-komae.org/

・ラジオ、新聞、広報誌、ポスター掲示、支援自販機

・新聞掲載: 2023年9月23日(土)朝日新聞暮らし面「広がるフードバンク生活困窮の支えに」など。

2022年6月16日	狛江のFMラジオ	夏休みひとり親等食料支援に食品寄贈呼びかけ
7月1日	広報こまえ	夏休みひとり親等食料支援に食品寄贈呼びかけ
9月15日	狛江のFMラジオ	10月食品ロス削減月間企画参加呼びかけ
9月23日	朝日新聞全国版	「東京狛江で活動 田中妙幸さんに聞く」
11月1日	広報こまえ	冬休みひとり親等食料支援に食品寄贈呼びかけ
11月17日	狛江のFMラジオ	子育て世帯への冬休み食料支援の食品寄贈呼びかけ
12月15日	広報こまえ	ブックオフで不用品活用してFB狛江に寄付呼びかけ
2022年2月2日	狛江のFMラジオ	食品寄贈呼びかけとボランティア募集のお知らせ
3月1日	わっこ	社会福祉法人連絡会フードバンクに食品寄贈

・支援自販機設置：8月7日狛江市・コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社との支援自動販売機設置の覚書締結。

フードバンク狛江のロゴ入りで、売り上げの一部がフードバンクに寄付(2023年度465円)。8月31日1号機ひだまりセンター、12月15日2号機あいとぴあセンターにも設置。

・ポスターの掲示=和泉エンジニアリングサービス(東和泉)の専用掲示板、「こまえくぼ1234」掲示板、OXストア、籠屋、木村メガネ店頭、理事長宅・支援者宅でポスター掲示。

4、フードバンク活動を普及するための調査・研究事業

子育て応援食料支援で申し込みのあった家庭に、配送・受渡し時にアンケートを同封し、実施しました。

・夏休み支援 : 1)昨年と比べ物価が上昇していますが、節約の工夫などあれば教えてください。

(回答69) 2)食品を受け取った感想を教えてください。

3)この食品が生活にどのように役立っているか具体的にご記入ください

この活動を支援して下さる市民・企業の方々にお伝えします。

・冬休み支援 : 1)世帯年収・世帯人数を教えてください。(答えたくないも入れて)

(回答87) 2)家計の出費の中で優先するもののトップ3を選んでください(家賃を除く)

3)子育て育児の悩みはありますか?ある場合、どのように解決していますか?

4)食品を受け取った感想や寄贈者へのメッセージを入力して下さい。

・春休み支援 : 1)子育て応援の食品提供方法で、宅配・直接受け取りのどちらを好まれますか?またそ

の

理由を教えてください。

(回答70) 2)何でも好きなことを書いてください。

(詳細はホームページ <https://fb-komae.org/>子育て応援実施報告書を参照)

5、組織基盤整備と運営について

一年を通じて開所日活動を見ると、年度当初は、子育て応援事業を担っていた事務局スタッフの離職や理事2名病気離任に、事務局メンバー1名が活動から離れ、団体運営や事業に困難が予測された。しかし新役員2名が加わり、月1の事務局会議での打合せ、メンバー・役員の頑張り、開所日活動や事業を継続できた。

ボランティアは、入っても就労でやめる、また疎遠になって離れるメンバーと参加回数は少ないが、長く関わるメンバーに分かれる。平日の開所日活動に参加できるメンバーは、就労準備的になり、なかなか人材確保が難しい。LINEで連絡を取り合って、シフト制で倉庫・事務所、市庁舎作業所の要員確保を図っている。団体に関わるメンバーは、役員を含め昨年度34名、今年度は減少し27名に減ってきた。

役員の高齢化、ボランティアの確保、財政基盤の課題と向き合った一年で、フードバンク活動の持続可能性を模索して、市の福祉相談課・環境政策課や地域の諸団体と「食の分かち合い推進会議」(仮)を開催。コミュニティフリッジなど諸団体の連携で食の支え合いの地域の仕組みづくりを提案したが、「推進会議」発足につながらなかった。

(1) 倉庫と市庁舎作業所での活動

① 事務所/倉庫での活動。

西野川倉庫・事務所は、事務局長・事務局次長が軸になり、毎週や月1~2回参加するボランティアで、

開所日運営してきた。役員になった事務局のひとりが、子育て応援事業食品ストック・食品整理・倉庫管理を担っている。

倉庫は手狭な上に、若手が少なく、重いものを持つ機会の多い活動だけに、力仕事を担えるボランティアの確保が課題。市庁舎作業所への配送と常設寄贈所の集荷、企業・市民からの食品寄贈(寄付・会費)受入れ、地域の諸団体の食品受け取り拠点で、子育て応援食品セット・発送や受け取り場所にもなっている。

② 市庁舎作業所の活動。

市庁舎作業所の開所日は、市民からの寄贈食品(寄付)の受入れと仕分け、2～3名でこま YELL からの依頼書により食品セット(米の小分け)、倉庫から配送された食品の仕分け・棚入れ・月末棚卸をしている。月末の棚卸しは定例化し3～4名で食品チェックと在庫管理をしている。賞味期限の過ぎてしまった飲料を一度出したが、棚卸を丁寧に行い、賞味期限がわかる棚入れに努めたい。開所日メンバーは、事務局の2名の日もあって、追加メンバーの確保や事務局後任の確保も課題。

(2) ボランティア・役員の交流・研修

コロナ禍以降、開所日2か所に分かれての活動でもあり、一定コロナも落ち着き、役員・ボランティアに声をかけ、1月27日(土)4年ぶりの新年会を開催した。好評だったが、料理作りなどで準備した個人の負担も大きかった。

活動に参加していても、こま YELL・フードバンク粕江の活動を知ってもらう機会がなく(昨年度までは、社協の福祉カレッジで聞いた。)11月こま YELL との情報交換会5回(一回30分程度)を開催。市庁舎作業所で、こま YELL の職員にフードバンク粕江の簡単な説明をし、こま YELL の事業報告を聞いた。双方「やって良かった。」との感想で次年度も開催を予定。

(3) 運営基盤の整備

①持続可能な事業活動のために。

一作年度役員2名より引き継いで2022年度から2年かけて作成してきた規定類は、賛助会員の認定社会労務士の助けも借りて、これまで10規程・規則を作成し、理事会承認を経て完成した。

区分	規程・規則名	理事会承認日	施行日
お金に関する規程・規則	役員の報酬等並びに費用に関する規程	2022/3/13	2022/4/1
	経理規定	2023/3/11	2023/4/1
	会計規則	2023/2/11	2023/4/1
	ボランティア謝金規程	2023/3/11	2023/4/1
コンプライアンス関連規程	コンプライアンス規程	2024/4/13	2024/4/13
	倫理規定	2024/4/13	2024/4/13
	内部通報規程	2024/4/13	2024/4/13

事務関連の規程	情報公開規程	2023/3/11	2023/4/1
	文書管理規程	2024/4/13	2024/4/13
	事務局規程	2023/2/11	2023/4/1

またマイファーム専門家派遣でフードバンク岩手の阿部氏助言により、組織基盤強化のために寄付集めに年度末取組み、賛助団体が大幅に増え、企業・団体・地域に足を運ぶ大切さを痛感するなど成果をあげた。

理事会役員は新理事2名が加わり、70代が多いなか、少し若返り、毎月開催できた。役員が開所日活動を支えるボランティアのひとりでもある。

② 組織の現状と財政基盤の確立に向けて。

会員の加入状況は、3月31日現在、正会員43名（昨年43名）、賛助会員個人47名（昨年44名）団体8団体（昨年6）で、昨年度と同じか微増。しかし寄付集めに踏み出したことで、2024年度の賛助団体を拡大する結果になった。それでも財政基盤整備には不十分で、今後も継続した働きかけと支援者の拡大に取り組む必要がある。

今年度はフードバンクへの寄付が、目標値180万に届かず、176万にとどまった。184万円の昨年に比べても減ってきた。

・寄付者総数：324件、寄付総額：1,763,965円（昨年287件、1,839,372円）

・団体からの寄付：日本NPOセンター、トータス往診クリニック、天理教江東分教会、三田会、狛江高校
いちょう会

*クレジット決済 Syncable は手数料も高く、今年度で終了。Square への切り替えをお願いした。〇名

・助成金：2023年3月 「コープみらい×中央共同募金会 子ども・子育て支援助成」 530,000円
2023年12月 MDRT 助成金 200,000円

* MDRT とは世界で活躍する生命保険募集人のプロフェッショナルが会社の垣根を越えて相互研鑽や社会貢献活動をしている団体。

・補助金:2023年4月

狛江市「生活困窮者自立支援機関と連携する NPO 法人に対する活動支援事業補助金」 500,000円

00円

2024年3月 東京都「令和5年度フードバンク活動支援事業補助金」 801,262円

開所日活動を担う事務局スタッフの報酬を確保し、食のセーフティーネット事業や子育て応援事業を確実に推進できるように積極的な寄付金や必要な助成金・補助金の獲得を目指す。

6、2023年度活動経過（2023年4月1日～2024年3月31日）

2023年	4月	7日	ブックオフ「キモチと。」利用開始
		20日	地域の居場所「ふらっとなんぶ」フードライブ開始
		26日	ファミリーマート市内2店舗でフードライブ開始
		27日	福祉相談課、こまエールと3者協議
	5月	10日	松原狛江市長と面談
		13・15日	お米のおすそ分けお渡し会
		20日	第7回通常総会開催
	6月	4日	狛江市のこまエコまつりでフードライブ実施

		8日	4課合同で子育て応援事業打合せ (福祉相談、子ども政策、学校教育、環境政策課)
		10日	お米のおすそ分けお渡し会
		16日	コマラジ出演、夏の支援協力呼びかけ
	7月	6日	コカ・コーラ社が視察に来所
		11日	和泉小学校からフードドライブ品寄贈
		18日	パルシステムからお米 240 kg寄贈
		27・29日	狛江マーケットで商工会青年部フードドライブ
		31日	子育て応援夏休み支援申込み開始
	8月	2日	夏休み支援食品セット・発送開始
		5日	夏休み子育て応援第1回お渡し会
		7日	コカ・コーラ社・狛江市と置覚書交わす
		19日	三色パステルアート親子体験会
		31日	ひだまりセンターに支援自販機設置
	9月	1日	「食の分かち合い推進会議(仮)」開催
		7日	東都生協フードドライブ食品を引取り・仕分け
		9・10日	狛江夏まつりで商工会青年部フードドライブ
		15日	コマラジ出演、食品ロス削減月間広報
		16・19日	子育て応援「おすそ分けお渡し会」
	10月 ～食品ロス削減月間～	2日	岩戸・上和泉地域センターにフードドライブケース設置
		7日	食品ロス削減月間:行長万里氏講演
		28日	日本フードエコロジーセンター見学会
		29日	三田国際学園高校フードドライブ品寄贈引取り
		31日	第1回東都生協交流会参加
	11月	1日	「広報こまえ」に冬休み応援記事掲載
		11・13日	お米のおすそ分けお渡し会
		12日	市民まつりで商工会青年部フードドライブ実施
		17日	狛江FM コマラジ出演
		22日	冬休み子育て応援申込み開始
		29日	NTT データに社内フードドライブでお礼訪問
		29日	冬休み子育て応援申込み締切
	12月	1・5日	冬休み子育て応援食品セット・発送
		8・9日	冬休み子育て応援お渡し会
		20日	冬休み子育て応援申込み締切(医療証受領世帯用)
		21日	冬休み子育て応援発送
		23日	お米のおすそ分けお渡し会
		25日	日本証券業協会 社内フードドライブ品受取り
		28日	仕事納め
2024年	1月	4日	仕事始め
		25日	JIAM による「生活困窮者の自立支援」研修に理事長出講
		25日	社会福祉法人連絡会フードドライブ品受取り

		27日	お米のおすそ分けお渡し会
	2月	2日	コマラジ出演
		15日	東都生協フードドライブ品受取り
		19日	カーブス祖師谷・稲城フードドライブ品受取り
		26日	創価学会よりお米300kg寄贈
		28日	春休み子育て応援申込み締切
	3月	1~9日	春休み子育て応援食品セット・発送
		4日	学習支援(こまYELL)提供
		5・9日	春休み子育て応援お渡し会
		21日	学習支援(子ども政策課)提供
		28日・30日	お米のおすそ分けお渡し会